

「自まんのお兄ちゃんだったのに・・・」

僕には、じまんのおにいちゃんがいます。すごくサッカーが上手で、釣りも得意で、僕といつもいっしょに遊んでくれます。そして、僕が宿題でこまっているときは、とてもわかりやすく教えてくれます。

そんなじまんのおにいちゃんが、スマートフォンをお母さんにおねだりしていました。もちろん「オンラインゲーム」をしたいからです。

最初、お母さんは、毎月お金もかかるものだと反対していました。でも、おにいちゃんには「みんなもってるんだよ」「自分だけ仲間に入れないよ」と毎日のように言い続けました。

そして、お年玉ではらうからといって、とうとうお兄ちゃんは、スマホを手に入れたのです！ それは、もう大喜びでした。そして、すぐに、オンラインゲームに夢中になりました。

何日かして・・・

母「ちよっとお手伝いしてもらいたいんだけど・・・」

兄「もうすぐ敵のボスをたおせるんだ。今やめられない。一緒にプレイしている友達にも悪いし・・・」

・・・

父「部屋にこもってばかりいないで、リビングにこないか？」

兄「ボイスチャットをしているから、家族のいるところではやりたくないよ・・・」

・・・

僕「お兄ちゃん、お風呂あいたよ。お湯さめるから入って！」

兄「無理。今から友達とオンラインゲームの約束してるし・・・」

・・・

父「いい天気だし、釣りに出かけないか？」

兄「家でゲームしとく！」

・・・

母「もう起きる時間よ！ゲームばかりしているから寝不足になるんでしょ!!」

兄「わかつてるよ。うるさいなあ。」

・・・

お兄ちゃんのスマホの使い方めぐって、みんなふきげんになることが多くなってきました。自まんのお兄ちゃんだったのに・・・僕とも遊んでくれなくなってしまったのです。

それから一週間ほどして、父と母のイライラが爆発し、「スマートフォンをやめさせる！とりあげる！」と言いつつ出たのです。でも、お兄ちゃんは、「イヤだ！勝手にそんなこと決めないで！」と反発しました。

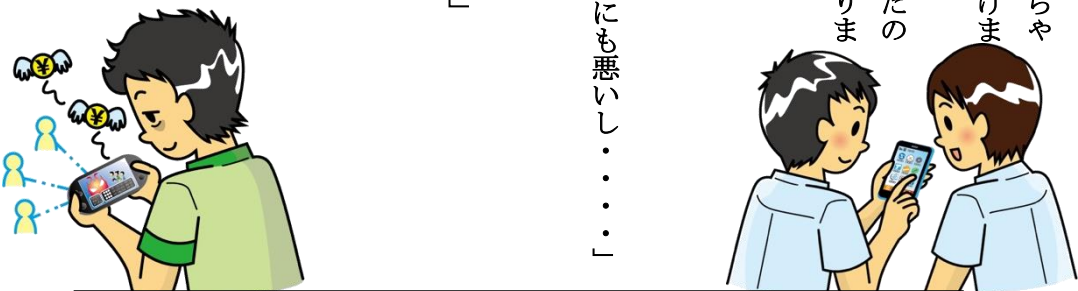
父と母は「だったら、ちゃんとした使用ルールを決めようじゃないか」というと、お兄ちゃんは、「スマホの使用ルールかあ・・・」とつぶやいたのです。乗り気ではなかったのですが、自分が「のめり込みすぎた」ことはわかっていたようです。

兄「わかったよ。どんなルールにすればいい・・・？」

父と母「これから話し合います。使用時間・場所・お金・交流相手・・・決めないといけないことはたくさんあるね・・・」

こうして、父と母と兄、ぼくも参加して、我が家のルールを決めていくことになりました。

そのときぼくは、じまんのお兄ちゃんにもどってほしいなと思いました。



【お兄ちゃんへのスマホの使用ルールを提案しよう】
(グループワークにて、使用ルールの提案をする)
ボードに書く もしくは 黒板に列挙する・・・

【想定される発問】

なぜ、使用ルールが必要なのでしょうか？

そのルールに決めた理由をかんがえましょう。

もしも、そのルールをやぶってしまったら、どうなりますか？

どうして、ルールをやぶってしまうのでしょうか？

どうすれば、ルールを守ることができますか？

学級でルールを決めるとしたら、こういった「学級ルール」があればいいとおもいますか？(最終的に3つ程度をチョイスする)

【事前アンケート】(実施しておくことが望ましい)
(1)ゲームをする・テレビをみる、スマホやタブレット等に関して、「我が家のルール」はありますか？

・ない

・ある(自分に対して、兄弟姉妹に対して)
どんなルールですか？

()))

【ルールがある場合】

それは守れていますか？

(守れている・たまにやぶることもある・守れていない

守らないとどうなりますか？

()))